

【質問】病気の痛みを取るための薬があると聞きました。詳しく教えてください。
(65歳女性)

医療用麻薬



を早める薬ではありません。うまく使うことで痛みから解放され、日常を楽に

にも使用されるようになりました。特に米国での使用は多く、先日逮捕され、その後不起訴となったトヨタ自動車の米国人女性常務も慢性疼痛の痛み止めとして服用していたそうです。しかし、欧米に比べ、わが国の使用頻度はまだまだ

痛み取り日常生活楽に

【回答】医療用麻薬は、がんなどの強い痛みを抑えるために用いる鎮痛剤で、緩和ケアに欠くことのできない薬です。モルヒネを代表としてオキシコドン、フエンタニルなどがあり、総称して「オピオイド系鎮痛剤」と呼ばれています。

入院時だけでなく外来や在宅医療でも使えるように、注射薬に加え飲み薬や貼り薬もあります。麻薬と聞くと「中毒にな

る」「死ぬ間際に使う」などの誤った印象があり、使用することに抵抗を覚える人は多いと思います。

先日、大腸がんで亡くなった男性俳優も「夜中に痛みが強く、モルヒネで殺してくれと言いました」と会見で述べていました。ですが、医療用麻薬は決して死

過することができるようになる薬です。

痛みの強い人に使用する場合は中毒にならないといわれています。このため、最近ではがんの痛み以外に、膝痛（しつづ）や腰痛など長期にわたり痛みを感じ日常生活に支障を来すような慢性疼痛（とつづ）

少ないのが現状です。それは麻薬に対する多くの誤った印象を持っている人が多いのに加え、医療関係者の間でも「長年使っても本当に中毒にならないのか」という不安が払拭（ふっしょ）くされていないためです。また、使用開始当初には便秘やめまい、吐き気などの

副作用もあり、これに上手に対処しないと効果が出る前に中止してしまう場合もあります。

痛みにより日常生活に支障を来している人にとって、痛みを取ることは生きる喜びをもたらすことです。医療用麻薬は強い痛みで苦しむ人にとって福音となることは間違いなく、今後その使用は増えていくものと思われま。われわれ医師も適切に使用できるように研さんを積みながら、世間の誤解を解くよう啓発していく必要があります。

日常生活に支障を来すような痛み、特にがんの痛みに苦しんでいる方がおられたら、かかりつけの先生に相談してみてください。
(県医師会)

普及に悪印象の払拭を

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。